

# アルファジョー-G 310X

この消火薬剤は消防法第21条の2第2項の規定(昭和23年法律第186号)に基づく、「泡消火薬剤の技術上の規格を定める省令」(昭和50年12月9日 自治省令第26号:国家検定)に適合した、水成膜泡消火薬剤「型式番号 泡第30~2号」です。本消火薬剤は、石油類(非水溶性危険物)の火災に使用できます。本資料はこの製品の仕様に関するものです。

## ■成分

- ・本消火薬剤は、フッ素系界面活性剤を主成分とする泡消火薬剤です。
- ・泡安定剤・凝固点降下剤などを添加しています。
- ・PFOS(ペルフルオロオクタンスルホン酸またはその塩)は含有していません。

## ■使用方法

- ・淡水・海水または硬水97容量%に本薬剤3容量%を溶解して使用します。
- ・石油類火災の消火に使用します。
- ・固定式(フォームチャンバー、泡ノズル等)消火方法に使用できます。また、粉末消火薬剤との併用も可能です。

## ■性状

- ・黄色透明の均質な液体です。
- ・一度消火すると油面上に薄い水成膜を形成し、燃料蒸気を抑制して長時間再着火を防止します。
- ・湿潤性に優れているため、木材・紙・ゴムなどの一般火災にも消火力を発揮します。
- ・泡消火薬剤の原液及び生成した泡は、毒性または損傷性がほとんどありません。
- ・鋼・黄銅・アルミニウムに対し著しい腐食性はありませぬ。温度38℃の泡消火薬剤の中に、金属試験片を21日間放置した場合の質量損失は次の通りです。

金属の種類	実測値	国検規格
鋼(SPCC)	0.22mg/20cm <sup>2</sup> /day	3mg/20cm <sup>2</sup> /day以下
黄銅(C2801P)	0.02mg/20cm <sup>2</sup> /day	
アルミニウム(A5052P)	0.13mg/20cm <sup>2</sup> /day	

- ・本消火薬剤は、温度65℃に216時間保った後に室温に戻し、さらに温度-18℃に24時間保った後に室温に戻す強制変質試験を行っても、試験前の製品とほぼ同等の性能を有します。

## ■使用温度範囲

「-10℃~+30℃」の温度範囲で使用できます。流動点以下に温度が下がり泡消火薬剤が凍結しても、液温が使用温度範囲内に戻れば有効に使用できます。

## ■物理的性状

試験項目	実測値	国検規格
比重 (20℃)	1.06	1.00~1.15
粘度 (20℃)	4.2cSt	200cSt以下
流動点	-15.0℃	-12.5℃以下
pH (20℃)	7.8	6.0~8.5
拡散係数	淡水	3.5以上
	合成海水	
沈澱量	原液	0.1vol%以下
	淡水・海水希釈液	0.05vol%以下
引火点	なし	60℃以上

## ■性能

	試験基準	実測値		国検規格
		淡水	合成海水	
試験条件	使用水	淡水	合成海水	——
	燃料種類	n-ヘブタン		——
	燃料量	200L		——
	発泡ノズル	国検水成膜泡用標準発泡ノズル		——
	放射量	10L/min		——
	燃焼火皿	B-20(4m <sup>2</sup> )		——
発泡性能	発泡倍率	5.7倍	5.5倍	5倍以上
	25%還元時間	3分43秒	3分20秒	1分以上
	水成膜試験	良	良	良
消火性能	消火時間	1分40秒	1分40秒	5分以内
	密封性試験	良	良	良
	耐火性試験	20cm <sup>2</sup>	20cm <sup>2</sup>	900cm <sup>2</sup> 以下

## ■容器

標準容器として次の3種類があります。

1000L容器：プラスチック製内容器付複合IBC容器

200L容器：JIS Z1601に適合する鋼製液体用ドラム缶

20L容器：JIS Z1706に適合するポリエチレン扁平缶

## ■取扱上の注意

### ●使用上の注意

- ・「石油類火災用」に使用してください。
- ・使用時に他の薬剤と混用しないでください。
- ・使用時には淡水・海水または硬水で3%希釈してご使用ください。

### ●貯蔵上の注意

- ・貯蔵時にブレミックス(淡水・海水・硬水と混合)しないでください。
- ・使用温度範囲を保持して貯蔵してください。
- ・貯蔵中に、みだりに開缶しないでください。